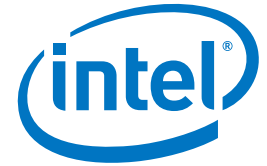


導入事例

インテル® vPro™ テクノロジー

インテル® vPro™ テクノロジー対応PCの導入



インテル® vPro™ テクノロジー対応PCへの更新と高度な運用管理ソリューションの導入によってクライアント管理の効率が大幅に向上



課題

- PCおよびソフトウェア・ライセンスの正確で効率的な資産管理を実現
- PCの動作状態によらずリモート操作が可能な管理体制の確立
- PCを中心とした省電力化への取り組みをさらに強化

ソリューション

- インテル® Core™ i7 vPro™ プロセッサ
- インテル® Core™ i5 vPro™ プロセッサ
- LanScope Cat* 6 (エムオーテックス株式会社)

IT管理者による 複雑な運用を必要としていた 従来のクライアント環境

大日本プラスチック株式会社は、精密工業部品、環境資材、土木資材、建築資材など、さまざまな分野のプラスチック製品を手がけている総合加工メーカーです。特に同社が大きなシェアを持つ高密度ポリエチレン管（ハウエル管）は、金属製パイプと比べて施工しやすく、耐腐食性や耐薬品性にも優れた製品となっています。

同社は、2010年よりタキロン株式会社のグループ企業となりましたが、こうしたグループ経営を強化していく中で、ITシステムの統合を進めていく動きも活発化しています。今回、同社は社員が日々利用するクライアント環境の強化と標準的な基盤形成を目的として、インテル® vPro™ テクノロジー対応PCとエムオーテックス株式会社の運用管理ソリューション『LanScope Cat* 6』を導入しました。

大日本プラスチックでは、本社を含めた

11拠点の事業所と4拠点の倉庫にクライアントPCが配備されています。従来は、数人のIT管理者が多くの時間と工数をかけながらこれらのPCを運用していました。

例えば、PCの資産管理は、新たなPCを購入するたびにグループウェア上で資産台帳を更新していく方法がとられていました。しかし、時間が経過するにつれて、PCの台数やインストール済みソフトウェア・ライセンスの情報に食い違いが生じてきます。このため、各拠点の担当者の力を借り、PCの台数やインストール済みソフトウェアの内訳を電話で確認しながら逐次修正していました。

また、ユーザーのヘルプデスク業務やソフトウェアのインストール作業などは、PCのリモート操作ソフトウェアを活用していました。しかし、こうした従来型のリモート操作ソフトウェアでは、PCのOSが正常に起動している状態でなければ操作できません。このため、PCの電源操作を行いたいときや、OSが正常に起動していないときには、現場の担当者に電話をかけながら作業を手伝ってもらう必要がありました。

dp 大日本プラスチック株式会社

大日本プラスチック株式会社

本社：大阪府大阪市北区梅田3-1-3

創立：昭和31年9月15日

資本金：8億5,920万円

事業内容：プラスチックの総合加工

(精密工業部品、環境資材、土木資材、建築資材、農水産資材、包装資材、生活資材など)



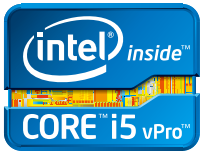
大日本プラスチック株式会社
管理部 経理・システムグループ
リーダー
奥村 孝治 氏



大日本プラスチック株式会社
管理部 経理・システムグループ
森川 博之 氏



大日本プラスチック株式会社
管理部 経理・システムグループ
有馬 慶太 氏



高度な運用管理を実現する インテル® vPro™ テクノロジー対応PCを全面採用

大日本プラスチックは、運用管理の効率化を目指し、いくつかの運用管理ソリューションを比較・検討した結果、LanScope Cat* 6の採用を決めました。同社の森川氏は、その理由を「プラットフォーム環境を担当いただいているNECネクサソリューションズに、実際の運用に則したデモを披露してもらい、その充実した機能と使いやすさを理解しました。LanScope Cat* 6で注目したのは、運用管理の際に発生するネットワーク通信量が他社のソリューションと比較して非常に少ないことでした」と説明しています。

LanScope Cat* 6を採用したもうひとつのポイントは、インテル® vPro™ テクノロジーを積極的にサポートしていたことです。当時、多数のPCを更新するタイミングも訪れていたことから、PCと深く連携して動作する次世代型ソリューションとして、インテル® vPro™ テクノロジー対応PCとLanScope Cat* 6の組み合わせに着目しました。

同社の有馬氏は、「インテル® vPro™ テクノロジー対応PCなら、PCの電源ON/OFFをリモートから確実に実行できます。また、LanScope Cat* 6は、インテル® vPro™ テクノロジーのリモートKVM制御（ハードウェアベースのリモート操作）をいち早くサポートし、OSのデスクトップ画面だけでなく、BIOS画面もリモートから操作できます」と述べています。

LanScope Cat* 6の導入作業は、クライアントPCの更新と同時に進められました。2010年6月には80台以上のノートブックPCが、同年8月には約100台のデスクトップPCが入れ替わっています。そのうち約50台は本社に、残りの約

130台は遠隔地の拠点に配備されています。

ここでは、いずれもインテル® Core™ vPro™ プロセッサを搭載したPCが採用されています。主に内勤社員が使用するデスクトップPCには、業務を快適にこなせる処理性能と省電力性を両立したインテル® Core™ i5 vPro™ プロセッサ搭載モデルが、営業担当者が携帯するノートブックPCには、持ち運びの容易な薄型軽量設計と長時間のバッテリー駆動を実現したインテル® Core™ i7 vPro™ プロセッサ搭載モデルが選ばれています。

運用管理を確実に実行 確かな「安心感」を手に入れる

新しいクライアントPCと運用管理ソリューションを導入した現在、大日本プラスチックのクライアント管理は劇的に改善されています。IT部門のスケジュールに基づいて運用管理をスムーズに進められるようになり、作業効率の向上に加え、エンドユーザーの拘束も含めた所要時間が大きく削減されました。例えば、資産管理とヘルプデスクに要する時間は、年間で135時間も削減することに成功しています。

PCやソフトウェアなどの資産管理は、LanScope Cat* 6がPCの電源状態によらずネットワーク経由で資産情報を収集し、一元管理を行っています。正確な資産管理によって余剰な資産が排除され、PCやソフトウェア・ライセンスの効率的な利用にもつながっています。

また、LanScope Cat* 6のリモート・コントロー

ル機能は、特に遠隔地のPCに対するソフトウェア配布やヘルプデスク業務で役立っています。有馬氏は、「社内のPCには、セキュリティ対策の一環としてBIOSパスワードをかけています。従来のリモート操作ソフトウェアでは、PCの再起動時にいったん通信が途切れるため、現地の担当者にパスワードを再入力してもらう必要がありました。新しい運用管理体制では、BIOSパスワードの入力も含め、すべての操作を本社からリモートで確実に実行できます」と述べています。

同社の奥村氏は、「今では、ユーザーに負担をかけることなく、いつでも確実に運用管理を行えるという安心感を手に入れました」と嬉しい声を漏らします。

インテル® vPro™ テクノロジーを 生かしてPCのきめ細かな 電力管理を実施予定

大日本プラスチックは、将来的に、インテル® vPro™ テクノロジーとLanScope Cat* 6が持つ高度な機能を活用し、夜間のパッチ配信の自動化やPCのきめ細かな電力管理など、運用管理体制のさらなる強化を目指しています。

森川氏は、電力管理の強化について「当社の各拠点には、夜間に特定のバッチ処理を実行しているPCが置かれています。現在は、夜間にも電源を落とさずに運用していますが、今後LanScope Cat* 6の電力管理設定を活用することで、バッチ処理の時間帯だけPCの電源をONとする運用へと改善したいと思います」と述べています。

2011年10月 大日本プラスチック株式会社にて取材

ソリューション・プロバイダー



本書は参考用です。インテルは、明示されているか否かにかかわらず、本書の内容に対する保証はしておりません

具体的なコスト削減額や結果は、当該顧客企業、そのビジネス目標や企業環境の構成に特有のもので、ビジネス目標、ソフトウェア設計、インフラストラクチャー、または構成が異なると、実際の結果にも差が生じます。

インテル® vPro™ テクノロジーには、強力なインテル® アクティブ・マネジメント・テクノロジー（インテル® AMT）が組み込まれています。インテル® AMTを利用するには、インテル® AMTに対応したチップセット、ネットワーク・ハードウェア、ソフトウェアを搭載したコンピューター・システムが必要です。システムは電源コンセントおよび企業LANに接続されている必要があります。セットアップは購入者による構成が必要です。特定の機能を有効にするために、セットアップに管理コンソールへのスクリプトや既存のセキュリティ・フレームワークへの統合を必要とすることがあります。また、新しいビジネスプロセスの変更や導入が必要となることもあります。ノートブックPCの場合、ホストOSベースのVPN上や、ワイヤレス接続時、バッテリー駆動時、スリープ時、ハイバネーション時、電源切断時には、インテル® AMTを利用できないことや、一部の機能が制限されることがあります。詳細については、<http://www.intel.co.jp/jp/technology/platform-technology/intel-amt/> を参照してください。

Intel、インテル、Intelロゴ、Centrino、Centrino Inside、Intel Core、Core Inside、Intel vPro、vPro Insideは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。

Microsoft、Active Directory、Windowsは、米国Microsoft Corporationおよび/またはその関連会社の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-1-1

<http://www.intel.co.jp/>

©2011, Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2011年11月

326395-001JA

JPN/1111/2000/CB/MKTG/TS